

平成29年学校評価 年度末評価まとめ

<p>本年度の重点目標</p>	<p>1 基本的な生活習慣の確立 2 授業と家庭学習の充実 3 進路実現に必要な力の養成 4 自律的な健康管理力の向上 5 読書活動の推進 6 生徒会活動の充実 7 産業の複合化への対応と職業教育の充実 8 教育活動の効果的な広報 9 ライフワークバランスに配慮した職場環境の整備と在校時間の適正化 (7) 学校の7時30分開錠、20時施錠などの時間設定について検討する。併せて、保護者や地域住民への周知について検討する。 (4) メンタルヘルス対策として、相談窓口を設けるとともに衛生管理医との連携を図り早期の改善に努める。 (9) 部活動において、教職員および生徒の健康に支障が無い計画を検討する。</p>		
<p>担当</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>総務部</p>	<p>・防災体制の整備</p>	<p>・避難訓練と避難所体験を行う。</p>	<p>・避難訓練の際、事前に役割を決めずに行ったが、各自が考えて行動できた。 ・東海地震関連の情報についての変更があったので、新しい規定に沿った内容に防災マニュアル(地震)を改訂していく予定。</p>
	<p>・広報活動の充実</p>	<p>・各行事ごとにHPへの掲載を頻繁に行う。 ・体験入学や学校見学会の参加生徒が増えるようPRに努める。</p>	<p>・図書情報部と協力して、HPの更新を頻繁に行った。その結果もあり、学校見学会には大勢の中学生が参加した。ただし、中学生体験入学に参加した生徒は若干減少した。今後も行事が終了したあとすぐにHPが更新できるよう協力していきたい。</p>
	<p>・PTA活動の充実</p>	<p>・PTAの諸行事への幅広い参加を依頼する。</p>	<p>・年間5回のPTA役員会、理事会が毎回多くの保護者の参加を得て、無事終了した。PTA役員の方々には熱心に各行事に参加していただき有意義な活動ができた。</p>
<p>教務部</p>	<p>・基礎学力の向上</p>	<p>・全職員に授業の規律確保と充実に向けた方針をしっかりと伝え、教科主任会・教科会を通して全教員が一丸となって生徒の学習指導、授業規律の確保を目指す。</p>	<p>・全体的に落ち着いた環境の中で各教科において授業が遂行された。全教員が一丸となって生徒の学習指導、授業規律に力を入れた結果と考えられる。また、保護者への対応も適切に行うことができた。 ・全校的に欠席日数が増加した。他分掌と連携して減少させる方策を考えていきたい。</p>
	<p>・授業と家庭学習の充実</p>	<p>・各教科において魅力ある授業づくりと評価の工夫を行なう。</p>	<p>・各教科において家庭学習を含め細かい指導がなされたと考える。来年度は授業研究週間を設けたり、学習指導要領の改定に向けアクティブラーニングの研修などを企画し、教員の授業力向上の施策を考えていきたい。</p>
<p>生徒指導部</p>	<p>・安心・安全な学校づくり</p>	<p>・生徒や保護者にとって安心で安全な学校にするために工夫ある指導を行う。また、学校や家庭、地域と連携を密にし、生徒の安全・安心を第一に考え、充実した高校生活を送れるような指導を行う。</p>	<p>・いじめの問題やスマホ・SNSの問題、交通マナーの問題等から生徒を守るための目標として安心・安全な学校づくりと掲げた。しかし、諸問題の大小に関わらず解決の糸口は見つからず後手に回ることが多く、改めてこれらの問題に対する難しさを痛感した。来年度以降の最大の課題は、早期発見、早期解決のみならず、未然に防ぐための啓発活動を充実させていきたい。</p>
	<p>・基本的な生活習慣の確立</p>	<p>・①挨拶②欠席・遅刻・早退、時間を守る③食生活を含む健康管理④整理整頓(脚下照顧)⑤身だしなみ全般⑥モラル・ルールを守る等、生徒の成長を第一に向上を促す。</p>	<p>・具体的な方策の6項目に特化して指導することができた。しかし、良い成果が出せたわけではない。来年度以降も学年、クラス、部活動や行事と協力しながら、また家庭と連携をとりながら取り組んでいきたい。</p>
	<p>・人間形成の確立</p>	<p>・高校生としてあるべき人間像を理解させ、卒業後に豊かな人生を歩めるよう生徒一人ひとりにあった人間形成を行う。(自立を促す)</p>	<p>・全校生徒に理解させ、反映させることができなかった。しかし、関わる機会のある生徒には生徒指導を通じて人間形成を含む指導を行うことが出来た。来年度以降も継続して指導を行い、生徒一人ひとりにあった指導を心がけ成長に導いていきたい。</p>
	<p>・情報モラルの向上</p>	<p>・時代の変化に流させることなく、正しく対応、順応できるよう情報モラルの理解を深める。</p>	<p>・情報モラルに関する理解はできているが、実際には行動が伴わない実情である。頭で理解するだけでなく、心で理解できるよう指導を行っていきたい。</p>
<p>保健厚生部</p>	<p>・自律的な健康管理能力の向上</p>	<p>・教員の観察能力の向上を図り、生徒の心身の健康状態の把握に努める。</p>	<p>・学校全体として生徒の健康状態の把握は、スムーズに行われ、情報を共有することが出来た。記録は担任の先生に任せる形になったが、報告すべき内容は確認できており、問題はなかった。担任の先生方の負担を軽減し、生徒を観察できる時間を確保することが最も大切である。</p>
	<p>・講話や配布物などを通じて、生徒、保護者、職員の健康意識の向上を図る。</p>	<p>・講話や配布物などを通じて、生徒、保護者、職員の健康意識の向上を図る。</p>	<p>・朝礼の講話や保健便り、また毎日の保健室での対応を通して、丁寧に健康に関する話を伝えるよう努力した。生徒が健康に関する基本的な知識を持ち、健康向上に自律的に行動出来る態度が育成できるよう、努力した。しかし今後も生徒自身の意識向上を図る必要性はある。</p>
	<p>・組織的な教育相談・特別支援教育の充実</p>	<p>・相談係会・教育相談委員会が学年等と連携し、柔軟な教育相談活動を行い、支援の必要な生徒には特別支援教育委員会を中心として対応する。</p>	<p>・担任会や学年会、相談係会が十分連携して活動し、問題を把握したら、迅速な対応が出来るよう、それぞれの件の様子を確認をこまめに行なった。また「いじめ防止基本方針」を改定し、よりよい組織作りを図った。</p>
<p>図書情報部</p>	<p>・読書活動の推進</p>	<p>・図書館の整備と学年に向けた広報活動、読書会の充実</p>	<p>・図書だよりや掲示物による本の紹介や読書会、校内読書感想文コンクールなどの取組みにより、貸出冊数も若干増えた。授業で利用しやすいよう調査・研究に役立つ本、生徒にとって魅力的な本を取りそろえ、昼休みも開館するなどして利用しやすい環境を整えることができた。蔵書整理については、点検作業後の習性および廃棄図書の見定めが後半にずれ込んでしまい、時間をかけて取り組むことができなかったことは今後の課題である。</p>
	<p>・情報リテラシー教育の推進</p>	<p>・各学年および学科、教科に向けた教員向け資料の提供、研修の実施</p>	<p>・1年生に向けた全体講話の中で、情報モラルに関する講話を年度初めに行なったが、その後および学年が上がった時に続く情報リテラシー、モラルの教育が提供できなかった。クラスや廊下の掲示物で注意を呼びかけたり、情報を提供したりするなどの簡単なことでもよいので実施すべきであった。</p>
	<p>・魅力ある教育情報の発信</p>	<p>・ホームページの利用性向上および校内における発信情報の提案</p>	<p>・ホームページの見やすさについては意識をし改善したが、一部のページの記事が古いなど適切でないものもあった。各分掌や学科、部活動などの個別の内容について定期的にチェックをし該当の部署に連絡できる体制を確立したい。また、ホームページに関する意見も、一部の図書館利用者だけでなく、学校全体で幅広く集約できる体制を確立したい。</p>

進路指導部	・進路実現に必要な力の養成	・3年間の進路指導を段階的に行う。	・進路ガイダンス、適性検査など担任会、学年会を相談しながら計画し、実施できた。
		・生徒に有用な進路情報を精選し提供する。	・RCAP、職業適性検査などの実施結果から、生徒自身に適している職業を把握させることができ、進路実現の為に事後指導を充実させ、必要な進路情報に触れさせることができた。 ・進路模試や看護模試を実施したが、その結果を有効利用させることが一部分でできなかった。生徒の希望を尊重させることは重要であるが、進路を確実に実現させるための十分な対策を立てる必要がある。
		・進路実現に必要な学力、面接力などの向上に必要な指導を充実させる。	・夏季休業中に進路に関する情報を収集し、進路ビジョンを構築させる機会として有効活用させることができた。 ・朝の学習会を利用して、履歴書や礼状作成などの進路に関する文書作成の練習をさせることができた。また、一般常識テスト、進路適性検査対策として問題集を購入し、各自の学力を把握させながら学習の定着を図った。 ・模擬面接指導は、2年、3年ともに例年通り全学年の副担任、学年付きの先生方の協力の下に実施できた。しかし、学期末の生徒の学習指導と重なる事があり、教務と連携して調整する必要がある。
特別活動部	・生徒会活動の充実	・生徒を延す行事の充実	・生徒同士の意見の食い違いを自分たちで克服できるように、影で支援を行う。  ・定期的な会議での報告以外にも、問題のある情報を速やかに伝えるようなくみづくり。  ・今年度の問題点を、職員／生徒の意見をまとめ、来年度に活かすように提案をする。
第1学年	・基本的生活習慣の確立	・規則正しい生活習慣を身に付けさせる。	・体調不良等で欠席する生徒が多い。進路を意識させるとともに、体調管理を考えさせる必要がある。
	・基礎学力の向上	・毎日の授業を大切にさせる。 ・読書の推奨。	・朝学の時間に問題集に取り組み、テストを行うことで定着度を確認することができた。自習形式なので、遅刻や課題をやっているものもあり、全員にきちんと取り組ませることが難しい。目標を明確にしながら、継続していきたい。
	・部活動への積極的参加	・部活動に積極的に参加させる。	・運動部、文化部ともに活躍している生徒も多いが、一部で転部や不参加が続いている者もいる。顧問と連絡を取りながら、続けさせるような指導をしていきたい。
第2学年	・授業の規律確保と充実	・授業担当者と担任との連携を密に取る。 ・課題提出は、必ず最後まで出させる指導を徹底する。	・クラスによって、あるいは授業によって落ち着かない時間もあるようである。今後も、生徒に対して事あるごとに指導をしていくが、担当者による温度差も担任との連携の中で差を縮めていきたい。
	・進路実現に必要な力の養成	・学年集会等を通じて、意識付けをする。 ・長期休業等を利用し、調べ学習をさせる。 ・インターンシップ、実習を通じて職業観を養う。	・今年度の行事の中で、進路実現に必要な意識付けを行ってきた。今後の課題としては、保護者と生徒の意志合意に向けて話をしていく必要がある。
	・基本的生活習慣のさらなる確立	・昨年度に引き続き、規則正しい生活習慣を意識させる。 ・欠席、遅刻指導を適宜行い、長期にならないよう早めに指導する。	・比較的、欠席する生徒は少なかった。しかし、特定生徒の欠席、遅刻が目立った。こういった生徒の中には、目標がはっきりしていない者も少なくない。今後は、いかに意識付けをするかが課題である。回数に関係なく欠席、遅刻指導を行いながら、担任、学年と話す機会を増やしていきたい。
第3学年	・基本的生活習慣の確立	・卒業後を見据えた行動を意識させる。	・昨年度に比べて欠席などの数も減少し、多くの生徒が進路決定後も気を緩めることなく、それぞれの新しいスタートに向けて前向きに学校生活を送ることができた。
	・進路指導の充実と連携	・進路実現に向けて、進路指導部と学年が連携・協力し、きめ細やかな指導を行う。 ・進路実現ノートを活用し、意識の向上を図る。	・進路指導部との連携を確実にし、個々の生徒に合わせた進路実現をサポートすることができた。しかし、一部の生徒は希望する進路がなかなか決まらず苦戦したこともあったため、より早い段階から考え、行動させていくことが大切であると考えた。
	・自律性や社会性の確立	・社会で活躍できる人間育成を目指す。	・学校祭をはじめ、様々な場面で生徒同士で物事を進めることができた。途中トラブルもあったが、それも自らで相談し解決しようとする姿勢が見られ、3年間での成長がうかがわれた。今後の活躍に期待したい。
商業・情報処理科	・学科コースの特長を踏まえた取組の推進	・各コースの特色が出せるように、必要に応じて外部講師の招聘や地域連携、高度資格取得を目指す。	・課題研究における商品開発や観光ビジネスコースの地域情報誌noci.com発行など、地域との連携を重視した取組を行うことができた。今後もさらに学科コースの特長を明確にすることで、本校の魅力を高め、他校との差別化を図っていきたい。
	・総合選択制導入に向けた準備	・生活文化科と連携を図り、学校設定科目「秘書実務」の準備を進める。	・選択科目の説明会を適宜実施し、自分に必要な学びが何かを考えさせることで、生徒が主体的に科目の選択ができるように心掛けた。来年度は、生活文化科の生徒を対象に「ビジネス実務」を実施し、産業の複合化に対応した人材育成を目指していきたい。
	・専門的知識の習得と資格取得	・検定前に適宜補習を行い、生徒の資格取得に向けてきめ細かな学習指導を行う。 ・生徒に適宜課題を課すことで、家庭学習の充実を促し、検定前の補習に頼らない指導体制を整える。	・検定前の補習だけでなく、生徒の理解度に応じて個別指導を行うことができた。今後は、学習指導の効率化や平準化を図り、検定の合格率の向上を図ってきたい。 ・積極的に検定にチャレンジする生徒はまだ多いとは言えないので、日頃から学ぶ意味や検定取得の必要性などを説明し、生徒の学習意欲の向上を図ってきたい。

商業・ 情報処理科	・広報宣伝活動の充実	・HPや出前授業、体験入学や学校説明会などを通じて、積極的に総合ビジネス・情報処理科の宣伝活動を行う。	・HPの更新を積極的に行うように心掛けたが、更新する時期の偏りも多かった。今後は定期的に更新できるように心掛けたい。 ・生徒主体の出前授業や商品開発にも引き続き取り組み、成果を上げることができた。今後は、このような本校の魅力ある取組を、地域の方々に認知していただけるよう、効果的な宣伝方法を検討していきたい。
生活文化科	・専門的な知識や技術の習得と資格の取得	・外部講師の活用や個に応じた指導を充実させ、各コースの専門性を高める。 ・各種の資格習得やコンクール等に挑戦させる。	・食物や被服、福祉分野の外部講師とともに講習会や実習を行い、より専門性の高い指導を行った。また、個に応じた指導を充実させ知識や技術の定着を図った。 ・資格取得やコンクールへの取り組みは、良い成果をあげることができた。来年度もコンクール等の内容を検討しながら指導を深めていきたい。
	・学科行事および学校家庭クラブ活動の充実	・年間を通じて、学科行事や家庭クラブ活動への効果的な指導を行う。	・家庭クラブ活動で行った福祉施設とのコラボ活動を、県の家庭クラブ研究発表大会で発表することができた。また、学科行事や家庭クラブ活動等で地域や他校と交流し、生徒の社会性やコミュニケーション能力の育成を図ることができた。 ・校内掲示物等で生徒の活動を報告するよう努めた。来年度はさらにホームページの更新も行っていきたい。
福祉科	・学科の特色を活かした進路実現	・担任や進路指導部と連携を図り、生徒の希望する進路実現を目指す。	・担任や進路指導部と連携をし、生徒の面談を行った。特に就職希望者については、介護実習前後に面談を設け、生徒の進路希望の把握に努めた。今後は今まで以上にボランティアやオープンキャンパスへの参加を勧め、早い段階で生徒の状況を把握するように努めていきたい。
	・介護福祉士国家試験合格に向けた学習指導	・模擬試験の活用や補習を効果的に活用し、介護福祉士国家試験合格に向けた取り組みを進める。	・模擬試験の結果から生徒の苦手科目を把握して講義を行った。さらに習熟度に応じて学習指導を行うことで、知識の定着を図った。集中力に欠ける生徒もいるため、低学年より国家試験に対する意識を高めさせる必要がある。
	・介護技術コンテストの運営	・生徒主体で介護技術コンテストを運営できるよう、きめ細かい指導を行う。	・昨年度の反省を活かし、日程や係の調整・変更を行った。生徒が自分の役割に責任を持って行動することができた。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	1 基本的な生活習慣の確立について 2 規律ある学習指導と学力の伸長について 3 進路指導における進路実現について 4 防災体制について 5 自律的な健康管理について 6 校内の美化・緑化について 7 部活動の活性化について 8 地域連携の充実について 9 教員の多忙化解消について		